

$$\text{謙虚} = \frac{\text{自分}}{\text{宇宙}} = \overset{\text{ゼロ}}{0}$$

$$\text{可能性} = \frac{\text{自分}}{\text{謙虚}} = \overset{\text{無限}}{\infty}$$

全ては「ゼロ化」で解ける
そこにあるのは、調和のエネルギー

自分のゼロ化とは「謙虚」になること

「謙虚になる」とは、「生かされていること」に気づくこと

それはすなわち、宇宙を分母にし、自分を分子に置くこと

謙虚を分母に、自分を分子に置くと無になる

そして、60兆個の細胞に秘められた、無限の可能性に気づくことができる

はじめに

ゼロと無限

——人間のエネルギー源「心」——

人間が最も大きなエネルギーを発揮できる時とは、大自然に畏敬の念を持ち、謙虚な心を持ち合わせた時ではないかと思えます。母親から生まれた私たち人間は、その元をたどれば地球の創造物であり、地球上に生かされている存在でもあるからです。これが宇宙の理であり、大自然の法則です。

私たちが日常当たり前として食している魚や鶏、動物などは、その命をいただくわけですから、「(命) いただきます」であり、野菜や植物は農業生産者が大事に育てたものを食べるわけですから、「(感謝して) いただきます」です。

ですから食事をする時の「いただきます」は、人間にとって謙虚な心の言葉であるのです。

この宇宙、地球上で生かされた存在として生きている私たち人間は、森羅万象(天地空間)に存在する、数限りない全てのもの、万物や事象)のもと、共存共栄して成り立っています。また、私たちは食する以前に空気、水がなければ生きることができません。私たちが当たり前として気にもしていない空気にしても、例えばその一成分である酸素は、植物や樹木などが太陽のエネルギーとの光合成によってCO₂をO₂に変換することによって発生します。

このような地球上のあらゆる調和の中で、私たちが人間として生きる意味、存在価値はどこにあるのでしょうか。それは、人間は考える脳を持ち、そして行動することにあると思います。行動は心を創り、その心はエネルギーを生みます。

今、自動車の例で考えると、ガソリンメーターが「空」のところにある時は、誰も遠乗りしようとはしません。ガス欠で止まるからです。そんな時はガソリンスタンドで

はじめに

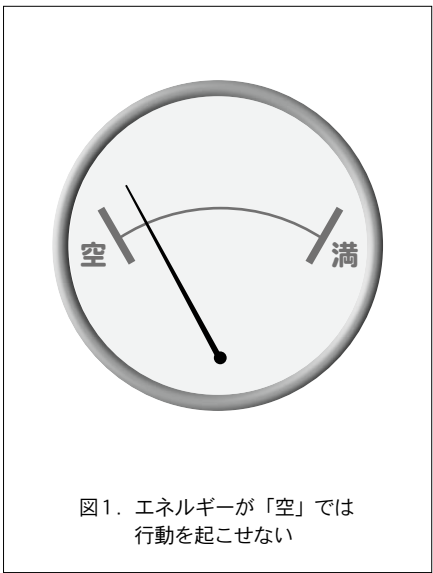


図1. エネルギーが「空」では行動を起こせない

給油すれば、また安心して遠くに行くことができます。

人間の場合はメーターがないので、「空か満か」を数値で計り知ることはできませんが、行動しないという時は、ガソリンが空になっているということですが、すなわち心の根源とも言える深層意識、無意識のところ、仏教で言う阿頼耶識あらいやしきのところ、エネルギーが無いということです。そこに内なるエネルギーがあれば、ガソリンが満タンの自動車と同じく、生き生きとした行動ができるのです。

自動車はガソリンの給油で満たされますが、人間のエネルギーはどのようにして満たされるのでしょうか。それは「心のあり方」によつてです。なぜなら心が身体に優先し、心が身体を動かしているからです。

「意識」でも身体は動きます。しかし、意識には二つあり、一つは一般的な意識とも言える頭で考える意識です。もう一つは今述べた、心が起点となる意識です。それはすなわち深層意識であり、深層意識とは無意識のことです。この深層意識の心こそが、真の人間としてのエネルギーを生み出す根源となるのです。まさにその心こそが祈りであり、感謝です。すなわち謙虚であり、調和の心です。

次の二つの訓は、江戸時代の武術の教えです。

「身体は、内なる氣に応じて動き

氣は、心の向かう所に応ずる」

「心の発動が

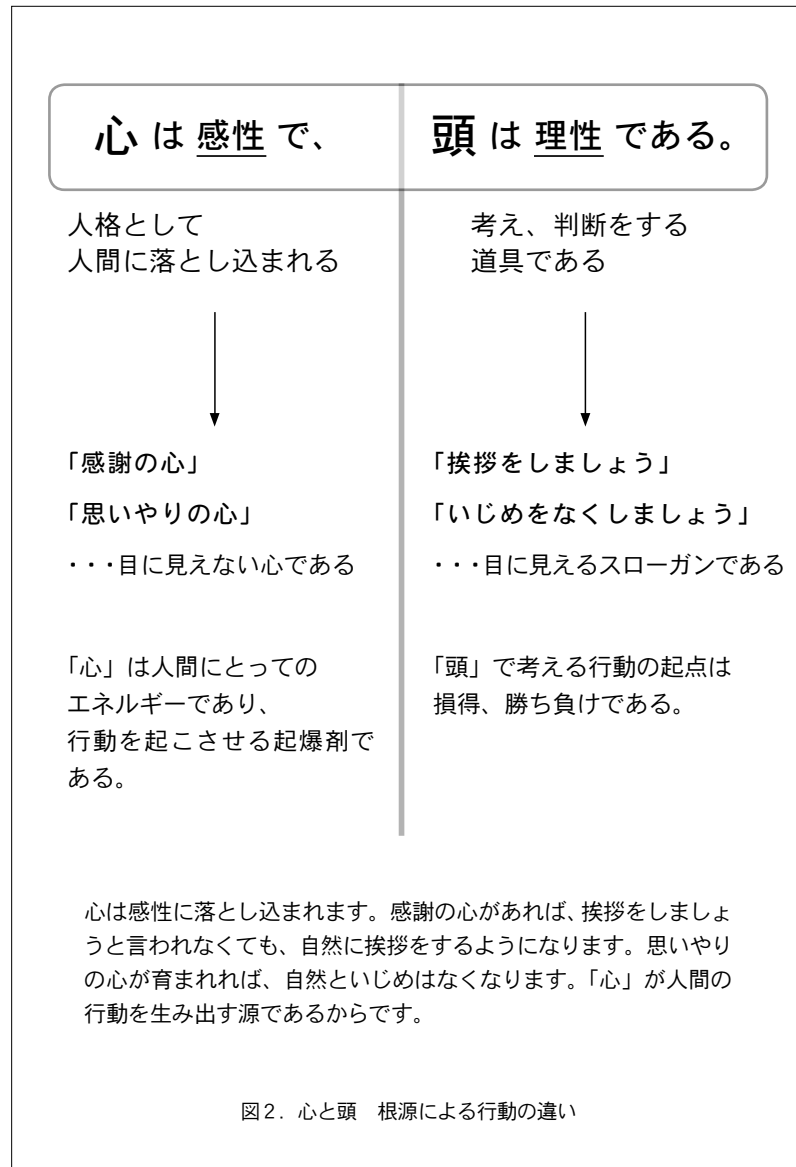
そのまま技となり

形となる」

まさに身体に優先する心の事を言っています。

また、この教えには「氣」という言葉が使われていますが、まさにこの「氣」というエネルギーを生む根源が心でもあるということです。

現在の私たちの大きな勘違いに「目に見えないもの」に対する捉え方があります。すなわち物質という「目に見えるもの」は存在するが、それ以外の「目に見えないもの」は存在しないという考え方です。この「目に見える物質のみが存在する」という考えは古典物理学としてのニュートン力学に依存するものです。医学や細胞生物学、スポーツなどの科学的とされる世界



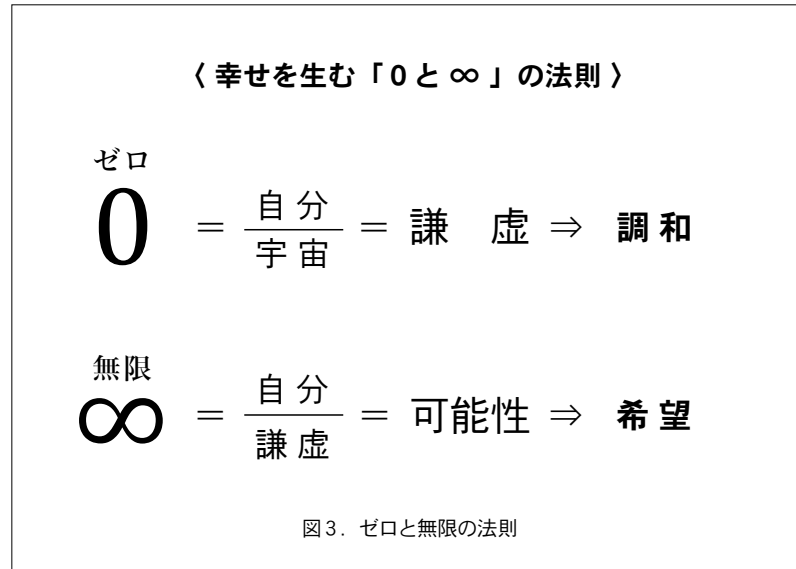
においても、この古い科学が常識となっています。

しかし、この目に見える存在としての物質主義をとなえる古典物理学では、宇宙の神秘は全く解くことができません。そこに登場するのが量子理論の先駆けとも言えるアインシュタインの一般相対性理論や特殊相対性理論です。しかしフォン・ノイマンやシュレーディンガー、ボーア等々による量子論をもってしても、宇宙の神秘はいまだ説明が難しい世界です。それでも現在、この量子論によつて宇宙の存在や時間論、空間論、重力論などが解き明かされつつあります。

この量子理論の根源にあるのが粒子であり、波動であり、またその構成している最小単位は目に見えない分子、原子などです。つまり、目に見えないところでエネルギーは生み出されているということです。

まさに人間の「心」も目に見えませんが、この「心」にこそ私たちの行動、エネルギー源があるのです。

人間は、お母さんのお腹の中の1ミリにも満たない受精卵から、10カ月間細胞分裂を繰り返しながら、目、耳、鼻、手足、内蔵、脳など、人間として必要な機能を全て備えて完成形として生まれてきます。



ただし、その時点で一つだけ備わっていないものがあります。それが目に見えない「心」です。心は生まれた直後から形成されていきます。良い環境に育てば「良い心」、悪い環境であれば「悪い心」が創られ、それがその人の人格を形成し、その人の行動の原点にもなつていきます。例えば昔の、狼に育てられると狼少年や狼少女になるという話もそういう例と言えるでしょう。その心の形成時期は3歳までに約80%、10歳でほぼ100%大人と同じ状態になると言われています。そしてこの幼児期の環境（教育）は、感性としてその人の人格に落とし込まれ、人はその人格に合った行動をするようになると言われています。10歳以上における教育は、理性としての思考や判断基準となり人格には落とし込まれにくくなります。

心ありの行動、真心は調和・融合を生み、欲の我は対立・衝突を生みます。対立・衝突は争いであり、消費、破壊です。

宇宙、そしてこの地球上に生まれ、生かされている人間のあり方とは――。我、欲をゼロにした時、人間のエネルギーは無限となり、次式の構図をとります。まさに全てが「0（ゼロ）と∞（無限）」に集約されるのではないのでしょうか。